

学年	5年	教科	道徳	資料名	おもちゃのシンフォニー（文溪堂「5年生の道徳」）②	
学校名	大石田町立大石田南小学校			実践者	小山 昌道	
本時の学習活動	集団の中で自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする態度を養う。					
ICT活用のねらい	【1 教員による活用】		【2 児童生徒による活用】			
1-2	1-1 興味関心を高める		2-1 情報を収集・選択する			
1-3	1-2 課題を明確につかませる		2-2 文や図表にまとめる			
	1-3 思考や理解を深める		2-3 発表したり表現したりする			
	1-4 知識の定着を図る		2-4 知識や技能の習熟を図る			
活用する機器・ソフト・コンテンツ等	タブレット端末(iPad), アプリ(カメラ, 動画再生機能), 大型テレビ					
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習		<input type="checkbox"/> グループ学習		<input type="checkbox"/> 個別学習	
活用の場面・方法	<input type="checkbox"/> 導入の場面		<input checked="" type="checkbox"/> 展開の場面		<input checked="" type="checkbox"/> まとめの場面	
	<ul style="list-style-type: none"> 展開場面では、事前に資料のイラストをタブレット端末で撮影しておき、適時拡大して提示した。また、登場人物の言葉や考えをカードに書いたもの画面横に貼るようにした。終末場面では、6年生が行っている自主活動の場面を事前にタブレット端末で撮影しておき視聴させた。 					
活用のポイント	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末で道徳副読本の資料のイラストを事前に撮影しておき、展開場面の発問や話し合いに合わせて拡大して見せた。また、登場人物の言葉や考えなどを画面横に提示して、考えさせたい価値により迫るようにした。 終末場面では、本時の学習活動を通してとらえた価値をさらに高めるために、6年生が自主活動に取り組む様子をタブレット端末で動画撮影したものを視聴させた。 					
児童生徒の学びの様子	<ul style="list-style-type: none"> 発問や話し合い場面に合わせてイラストを拡大して提示したことで、教師の発問を児童にとらえやすくする効果があった。また、登場人物の言葉や考えを画面横に提示したことで、考えるべき道徳的価値が明確になり、その後の話し合い活動が活発になったり、深く考えた内容を書きまとめたりすることができた。 6年生が行っている自主活動を視聴することで、本時の価値である「自分の役割の果たすこと」について思いを深くめぐらせながら熱心に視聴する姿が見られた。 					
活用の様子 (写真)						
実践を通して感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 活発な話し合い活動や価値に迫る考えを引き出すために、イラストを提示しながら発問することは、児童にとって場面を把握しやすかったり、具体的にイメージしやすかったりなどの効果が見られた。また、価値に迫る登場人物の言葉や考えを合わせて提示したこともより効果的だった。 終末場面で、身近な6年生の姿を見せたことで、より高い価値に迫る学習感想を書きまとめる児童が見られ、終末の工夫として効果的だった。 撮影から拡大提示までのタブレット端末での一連の準備は、短時間で簡単な操作でできるため、資料準備や効果的な学習活動を考える上で有益であった。そのため、今後もiPadなどのタブレット端末を大いに活用していきたいと感じた。 					